

壳木村誌目次 下巻

題字

口絵

前壳木村長 村松直人

第五編 近代

第一章 明治前半期（町村制以前）の壳木の歩み

2 筑摩県から長野県へ
3 下伊那郡が成立するまで

第一節 維新の変革

1 戸籍区の設定
2 戸籍区から大小区制へ
3 郡制施行と下伊那郡の成立

一 德川幕府の崩壊と近代国家の誕生

1 戸籍区の設定
2 戸籍区から大小区制へ
3 郡制施行と下伊那郡の成立

二 明治初期の制令

1 戸籍区の設定
2 戸籍区から大小区制へ
3 郡制施行と下伊那郡の成立

三 明治初期の村の生活

1 村規定期にみる時代の動き
2 明治初期の村入用費
3 年貢の時相場

第三節 最初の合併と分村

一 旦開村の誕生
1 押付け合併の強行
2 五ヶ村で旦開村発足

第二節 地方行政機構の変遷

1 長野県に統合するまで
2 合併解消して再び壳木村に

1 伊那県から筑摩県へ
2 合併解消して再び壳木村に

第一 章	分村への動き	元
2	旦開（新野）・和合・壳木の三村に分離	元
3	壳木村会の開設	元
第四節 旦開村外三カ村連合村		元
一 連合村の成立		元
二 連合村会		元
1 煩雜なしくみ		元
2 連合村に於ける壳木村会		元
3 連合村の財政事情		元
4 曾根弥三郎の分間地図		元
第五節 地租改正と租税制度の確立		元
一 実地面積の測量		元
1 壬申地券と土地所有権の確立		元
2 檢地面積と実勢との隔たり		元
3 実地面積の測量（地押丈量）		元
二 大ゆれの地価の算定		元
1 大蔵省の地価検査例		元
2 筑摩県の「農民的地価算定案」		元
3 官定地価の押し付け		元
三 重税となつた新地租		元
第二章 豊村時代（町村制以降）の村と壳木区の行政		元
第一節 豊村発足		元
二 豊村の発足の経過		元
1 各村独立は入れられず		元
2 壳木村と和合村の合併請願書		元
3 豊村発足と村名		元
第二節 豊村の村政		元
一 合併四十年後に役場新築		元
1 庁舎新築の動き		元
2 庁舎建築にこぎつけるまで		元
二 村の行政組織		元
1 有産者による名譽職制		元

2 村長の選出と雇われ村長.....	四〇	3 売木区有財産.....	三
3 村長選出は「村の最至難問題」.....	四〇	4 区会の運営と予算.....	四一
三 村 会.....	四一	二 売木学区の廃止.....	五二
1 議員の選出.....	四一	三 区有財産処分と区会の解散.....	五三
2 村会の実際.....	四一		
第三節 村の財政とくらし.....	四五	第五節 税制と村税.....	五五
一 明治後半期の財政.....	四五	一 村税負担と納入表彰規定.....	五五
1 日露戦争による緊縮財政.....	四五	1 帯納は公徳心の欠如.....	五五
2 道路修繕は地区の協議費で.....	四五	2 村税納入表彰規定.....	五五
3 基本財産蓄積条例.....	四五	二 村税賦課のしくみ.....	五六
二 大正期の財政.....	五六	1 県税戸数割等級表.....	五六
1 第一次世界大戦の影響.....	五六	2 昭和十五年の大改正と滯納率の減少.....	五六
2 売木区から出された減税請願書.....	五六		
三 昭和期（終戦まで）の財政.....	五六	第六節 選挙制度.....	五六
1 恐慌下の村財政.....	五六	一 普通選挙への歩み.....	五六
2 太平洋戦時下の財政.....	五六	1 制限選挙からの出発.....	五六
第四節 売木区会と区有財産.....	五六	2 普通選挙の実現.....	五六
1 売木区会.....	吾		
1 売木区会の設置.....	吾		
2 区長と区会の関係.....	吾		
第七節 豊村時代の村政を担った人々.....	五六		
1 豊村の村長・助役・収入役.....	五六		
1 村 長.....	五六		
2 助 役.....	五六		

3 収入役.....	六〇
二 豊村議會議員.....	六〇
三 売木区長.....	六一
四 売木区議員.....	六三
第三章 人口と戸数の増加.....	六五
第一節 明治前半期（豊村以前）の売木の人口と戸数.....	六五
一 戸籍法の公布と壬申戸籍.....	六五
二 戸籍調査の実態.....	六五
三 売木の人口と戸数.....	六六
1 明治初期の人口.....	六六
2 明治前半期の推移と戸数の急増.....	六六
第二節 豊村時代の人口と戸数.....	七〇
一 売木と和合の人口差.....	七〇
二 豊村の人口動態.....	七〇
1 開発期の売木の人口増加.....	七〇
2 豊村の自然増と社会増.....	七〇
3 発電所工事による人口急増とその後.....	七〇
3 通婚圈と他村からの移住.....	七一
第四章 農業と村のくらし.....	七二
第一節 明治期の土地開発.....	七三
一 明治初期の開墾地.....	七三
1 開墾が盛んになる.....	七三
2 明治以前の耕地の範囲.....	七三
3 地租改正時の開墾地.....	七三
二 明治十年代の開墾地の広がり.....	七四
1 共有地の貸付と特売.....	七四
2 開墾地の広がり.....	七四
三 明治二十年代～三十年代の開墾ブーム.....	七四
1 区の事業で開墾.....	七四
2 開墾地の大量売渡し.....	七四
3 売渡しに対する郡役所の照会.....	七四
4 無願開墾地の土地整理.....	七四
5 開墾地をめぐる混亂.....	七五
四 開墾、開田の様子.....	七六
1 開墾者の苦労.....	七六

3 開田は一日一坪が限度………	六
2 牧場の開墾と岩倉の発展………	六
3 大平新八郎と小洲………	六
4 三本栗・奥小屋の開墾………	六
五 岩倉の開発………	九
1 伊那牧畜会社………	九
2 牧場の開墾と岩倉の発展………	九
3 大平新八郎と小洲………	九
4 三本栗・奥小屋の開墾………	九
第二節 耕地と農産物………	九
一 耕地と所有状況………	九
1 壳木の耕地面積………	九
2 明治期の土地所有状況………	九
二 明治前半期の農産物………	九
1 農家の収穫量………	九
2 稲作・畑作の収穫量………	九
3 特有物産品………	九
4 村からの移出物産品………	九
三 豊村時代の稲作と畑作………	九
1 壳木と和合の稲作比較………	九
2 畑 作………	九
四 農事改良………	九
1 自然の脅威………	九
2 烧 畑………	九
3 肥料と害虫駆除………	九
4 短冊型苗代と塙水撰種………	九
第三節 焚 畑………	九
一 焚畑面積………	九
1 種・蕎麦は焼畑で………	九
2 豊村の焼畑面積は郡内第一………	九
3 壳木の焼畑面積………	九
4 個人の焼畑面積………	九
二 焚畑農法と収穫量………	九
1 焚畑農法………	九
2 焚畑の収穫量………	九
3 焚畑年貢………	九
4 焚畑の獣害と獵師………	九
第四節 備荒貯穀………	九
一 貯穀の運営………	九
1 貯穀量………	九
2 貯穀の徵収………	九
3 貯穀の貸出し………	九
4 貯穀の運営………	九
二 貯穀廃止と財産処分………	九

第五節 養蚕と製糸

卷

一 養蚕業の隆盛

卷

1 養蚕の始まり

卷

2 蚕種製造

卷

3 養蚕とくらし

卷

二 製糸業

卷

1 手引き糸と機械糸

卷

2 組合製糸と信三館製糸

卷

3 戰争と養蚕

卷

第六節 畜産

卷

一 明治七年旦開村の畜産統計

卷

二 馬と村民のくらし

卷

1 壳木の馬頭数

卷

2 馬市

卷

3 馬種の改良

卷

4 豊村時代の馬頭數

卷

第七節 農業関係機関

卷

一 農会

卷

二 産業組合

卷

第五章 山と村のくらし

卷

第一節 共有山の運営

卷

一 山とくらし

卷

1 株山・柴山・薪炭林

卷

2 立木山

卷

二 官有地の引戻し

卷

1 官有地と民有地

卷

2 壳木の山林面積

卷

三 官有地の引戻し

卷

四 共有山の管理・運営

卷

1 豊村以前の管理・運営

卷

2 豊村時代の管理・運営

卷

五 斧取山木立の山林売却事件

卷

1 事の起り

卷

六 立木売却の建議書

卷

7 売買契約と売渡金の一部配当

卷

8 郡役所からの照会

卷

9 区議・伍長の嘆願書

卷

第二節 共有山の分割	一 「官有地」回避のかけこみ分割（第一回）	二 「表面は共有」の永代売渡し（第三回）	三 村への提供を見越した分割（第五回）	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	三 製材	四 木炭生産	五 明治の木地師たち	六 植林	三 製材	四 小白木
一概要	一 戸一〇町歩宛分割	二 戸一〇町歩宛分割の計画	三 村へへの提供を見越した分割（第五回）	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	一 山林資本による製材所	二 昭和以後の製材所	三 豊村の木炭生産	四 越前炭焼きのこと	一 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末
第三節 林産業	1 区有林の処分と分割	2 村有林の貸借	1 公有林野整理委員会	1 区有林の処分と分割	1 公有林野整理委員会	1 植林のはじまり	1 木地師の動静	1 豊村の木炭生産	1 昭和以後の製材所	1 皆敷（かいしき）	1 再度の契約	
一概要	2 村有林の貸借	3 実地測量	2 分割後の再調整	2 分割後の再調整	2 植林のはじまり	2 植林思想の遅れ	2 木地師の動静	2 豊村の木炭生産	2 昭和以後の製材所	2 配当金の始末		
二 林産物	3 実地測量	4 運営費の捻出と事業のいきづまり	5 測量は村民の手で	3 実地測量	3 売木の植林	4 戰時下的造林促進策	3 売木の植林	3 豊村の木炭生産	3 昭和以後の製材所	3 屋根板		
一概要	4 運営費の捻出と事業のいきづまり	5 測量は村民の手で	一 戸一〇町歩宛分割	二 戸一〇町歩宛分割の計画	三 村へへの提供を見越した分割（第五回）	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	
第三節 林産業	一 戸一〇町歩宛分割	二 戸一〇町歩宛分割の計画	三 村へへの提供を見越した分割（第五回）	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	三 製材	四 木炭生産	五 明治の木地師たち	六 植林	三 製材	
一概要	二 戸一〇町歩宛分割	三 村へへの提供を見越した分割（第五回）	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末	
二 林産物	三 村へへの提供を見越した分割（第五回）	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末		
一概要	四 大正十一年の区有財産最終処分（第六回）	五 分割作業の実際	六 植林	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末			
第三節 林産業	五 分割作業の実際	六 植林	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末				
一概要	六 植林	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末					
第三節 林産業	七 越前炭焼きのこと	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末						
一概要	八 昭和以後の製材所	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末							
第三節 林産業	九 小白木	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末								
一概要	一 豊村の木炭生産	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末									
第三節 林産業	二 皆敷（かいしき）	二 配当金の始末										
一概要	二 配当金の始末											

一 売木から旅に………	二 徒歩時代の豊村の旅客数と行き先………	三 売木の古い道………	四 道路改修への決意………
一 新野（旦開村）への道………	二 村道一四号線（大平線）………	三 県道満島上村線（平谷線）の改修………	四 村道一号線（豊村中央線）………
2 下條・飯田への道………	5 軒山線………	5 場所未定………	五 場所未定………
3 上津具・新城・豊橋への道………	6 軒山線………	6 場所未定………	六 場所未定………
4 根羽への道………	7 軒山線………	7 場所未定………	七 場所未定………
5 平谷への道………	8 軒山線………	8 場所未定………	八 場所未定………
第二節 交通・運輸の発達	第三節 鉄道	第四節 通信と電気	第五節 郵便制度
一 物資の輸送………	一 中央線の売木測量………	一 旦開村郵便局の創設………	一 旦開村郵便局の創設………
1 明治期の中馬………	二 飯田線の開通………	2 旦開村郵便局の開業………	2 旦開村郵便局の開業………
2 中馬から運送馬車へ………	3 幻の信三鉄道………	3 旦開村郵便局の移転………	3 旦開村郵便局の移転………
3 鉄道の開通と輸送路の変遷………	4 昭和十二年全線開通………	4 旦開村郵便局の廃止………	4 旦開村郵便局の廃止………
4 運送馬車からトラックへ………	5 場所未定………	5 場所未定………	5 場所未定………
5 乗合自動車・バス………	6 場所未定………	6 場所未定………	6 場所未定………
第七章 通信と電気	第一節 通信	第二節 電気	第三節 郵便制度
一 主要街道（飯田以南）の改修………	一 郵便制度の創設………	一 旦開村郵便局の創設………	一 旦開村郵便局の創設………
1 三州街道と遠州街道の綱引き………	二 旦開村ノ内新野五等郵便局………	2 旦開村郵便局の開業………	2 旦開村郵便局の開業………
2 遠州街道の改修………	3 売木郵便局の発足………	3 売木郵便局の開業………	3 売木郵便局の開業………
3 三州街道の改修………	4 電信・電話………	4 電信・電話………	4 電信・電話………
4 上村街道と平谷街道の改修………	5 場所未定………	5 場所未定………	5 場所未定………
一 豊	二 豊	三 豊	四 豊
五 豊	六 豊	七 豊	八 豊
九 豊	十 豊	十一 豊	十二 豊
十三 豊	十四 豊	十五 豊	十六 豊
十七 豊	十八 豊	十九 豊	二十 豊
二十一 豊	二十二 豊	二十三 豊	二十四 豊
二十五 豊	二十六 豊	二十七 豊	二十八 豊
二十九 豊	三十 豊	三十一 豊	三十二 豊
三十三 豊	三十四 豊	三十五 豊	三十六 豊
三十七 豊	三十八 豊	三十九 豊	四十 豊
四十一 豊	四十二 豊	四十三 豊	四十四 豊
四十五 豊	四十六 豊	四十七 豊	四十八 豊
四十九 豊	五十 豊	五十一 豊	五十二 豊
五十三 豊	五十四 豊	五十五 豊	五十六 豊
五十七 豊	五十八 豊	五十九 豊	六十 豊
六十一 豊	六十二 豊	六十三 豊	六十四 豊
六十五 豊	六十六 豊	六十七 豊	六十八 豊
六十九 豊	七十 豊	七十一 豊	七十二 豊
七十三 豊	七十四 豊	七十五 豊	七十六 豊
七十七 豊	七十八 豊	七十九 豊	八十 豊
八十一 豊	八十二 豊	八十三 豊	八十四 豊
八十五 豊	八十六 豊	八十七 豊	八十八 豊
八十九 豊	九十 豊	九十一 豊	九十二 豊
九十三 豊	九十四 豊	九十五 豊	九十六 豊
九十七 豊	九十八 豊	九十九 豊	一百 豊

一 費村に電話が入る.....	一六	一 警察制度の成立.....	一八
4 壳木の電話はいつ入った?.....	一九	二 阿南地区の警察.....	二二
第二節 電力開発と岩倉ダム.....	二三	三 壳木駐在所.....	二三
一 電灯の普及.....	二七	第三節 衛生と医療.....	二三
1 電気事業の起り.....	二七	一 伝染病予防祈願.....	二三
2 南信電気株式会社.....	二七	二 衛生組合と清潔法施行.....	二四
3 壳木に電灯が点いた.....	二七	1 衛生組合の発足.....	二四
二 岩倉ダムの建設.....	二七	2 清潔法施行.....	二四
1 豊発電所と矢作水力会社.....	二七	三 伝染病と隔離病舎.....	二四
2 売木川の水利権譲渡.....	二七	1 豊村で発生した伝染病.....	二四
3 岩倉ダムの建設.....	二七	2 赤痢発生とその対策.....	二六
4 中部電力への移行.....	二六	3 伝染病隔離病舎.....	二六
第八章 消防・警察・医療.....	二九	4 伝染病.....	二六
第一節 消 防.....	二九	5 トランホーム.....	二六
一 消防制度.....	二九	6 結 核.....	二六
二 売木区消防組.....	二九	四 その他の保健衛生対策.....	二九
第一節 警 察.....	二九	1 乳幼児健診と母性保護.....	二九
五 医療機関.....	二九	2 金田玄良(福堂).....	二九
1 村松元長.....	二九	3 村松正久・正穂.....	二九

4 濟生堂（新野 後藤医院）	二一〇三
5 松澤診療所（新野）	二一〇四
第九章 戰爭と生活	二一五
第一節 兵事のはじまり	一四
一 徵兵制度	一四
1 徵兵令の公布	一四
2 徵兵制と村の動き	一四
第二節 明治の戦役	一四
一 日清・日露戦争	一四
1 日清戦争	一四
2 日露戦争	一四
二 銃後の守り	一九
1 尚武会	一九
2 在郷軍人会	一九
第三節 日中戦争・太平洋戦争	二〇
一 滿州事変と満州国独立	二〇
二 日中戦争	二〇
第一〇章 発展期の青年団体	二二
一 岩倉同志会	二二
二 至誠同志会	二二
三 豊村青年会	二二
一 売木青年会の発足	二二
二 太平洋戦争	二二
一 戰時の村の生活	二二
2 戰争の被害と加害	二二
3 統制経済と耐乏生活	二二
4 国民総動員体制へ	二二
5 銃後を支えた人たち	二二
3 出征兵士の壮行	二二
4 戰後の復員	二二
5 戰後の復興	二二
第四節 滿州開拓	二二
一 滿州移民	二二
二 滿州開拓義勇軍	二二
三 滿州建設勤労奉仕隊	二二
第五節 村民の戦争体験記	二二

第六編 現代

第一章 戦後の民主化と農地改革

一分村経過……………二九
二新たな壳木村の出発……………三〇
三その後の合併問題……………三一

第一節 終戦と占領政策

一 分村経過……………二九
二 新たな壳木村の出発……………三〇
三その後の合併問題……………三一

第二節 農地改革

一 第一次農地改革……………二五
二 第二次農地改革……………二五
三 壳木における農地改革……………二五

第一節 農地改革以前の小作地

一 農地改革以前の小作地……………二五
二 農地委員会の発足……………二五

第二節 壳木村の農地問題

一 農民団体と地主側の動き……………二四
二 地主の土地取上げと小作料の金納化……………二四

第三章 村の人口と過疎化現象

一 人口の減少と高齢化……………二七
二 人口の減少……………二七
三 世帯構成員の減少……………二七
四 高齢化の推移……………二七

第二章 壳木村の新たなる出発

一 地区別戸数と人口……………二七
二 豊村分村と壳木村の復活……………二九

第一節 豊村分村と壳木村の復活

一 豊村分村と壳木村の復活……………二九

第四章 行政と社会

第一節 行政機構

2	村民憲章
3	村木、村花および村鳥
4	壳木村表彰者

第二節 過疎対策と農村振興事業

一	はじめに
---	------

二	過疎対策について
---	----------

1	山村振興事業
---	--------

2	過疎地域振興計画による事業
---	---------------

3	自然休養村事業
---	---------

4	工場誘致
---	------

5	その他（住宅建設、上・下水道の建設など居住環境の整備、
---	-----------------------------

	補助金交付によるI・Uターン施策などによる過疎対策）
--	----------------------------

三 地方自治法にもとづく村の各種の機関

第三節 予算と財政

一	壳木村の財政の推移
---	-----------

二	壳木村発足当初の予算と決算
---	---------------

三	昭和二十五年度以降五年ごとの決算額
---	-------------------

四	村財政の過疎債依存
---	-----------

五	村財政の悪化
---	--------

六	財政構造の現状
---	---------

四	壳木村のシンボルと村民憲章
---	---------------

1 村 章	八五
-------	----

第四節 災害予防

三 村営水道 三三
1 現在にいたる経過 三三

一 売木村の消防 三〇五

1 過去の大灾害 三〇五
2 その他の災害 三〇七

3 村の防災体制 三〇八
4 売木村消防団 三一〇

二 広域消防 三一

1 近隣町村との応援協定 三一三
2 売木村保健センター 三一六

第五節 保健・衛生 三二

第六節 福祉・厚生 三六

一 村の保健医療行政 三二

1 売木村保健事業計画 三二
2 国民健康保険 三四

二 環境衛生事業 三六

1 し尿処理 三六
2 ゴミ処理 三八

三 下伊那南部衛生施設組合 三〇

1 桐林クリーンセンター 三〇
2 南部清掃センター 三〇

3 ゴミの収集と再資源化のこれまでの動き 三〇
4 阿南斎場 三一

四 売木村診療所・保健センター 三四
1 診療所の設立と沿革 三四
2 主要設備 三五

3 事業費など 三五
4 旧診療所の開設と概要 三五

5 歴代医師の動静 三五
6 売木村保健センター 三六

五 県立阿南病院 三七

7 阿南斎場 三三

五 介護保険 三三

六 民生委員会	三	主要農産物の統制と生産調整	三
七 社会福祉協議会	三七	統制と供出	三七
1 経緯	三七	米余りと生産調整	三七
第二章 村の産業	三九	品種の改良	三九
第一節 産業別就業人口の推移	三九	肥料・農薬の進歩	三九
一 高度経済成長に翻弄される農村	三九	保温折衷苗代	三九
二 農業の衰退と産業構造の変化	四〇	水口の工夫	三九
1 農業の衰退	四〇	客土事業	三九
2 生活基盤の確立	四一	五 ほ場整備と機械化	三九
第三節 土地利用状況	四二	1 ほ場整備事業	三九
第四節 農業	四三	2 機械化	三九
一 農家数と経営耕地の推移	四三	六 畜産	三九
1 農家数と農家人口	四三	1 馬が姿を消す	三九
2 経営耕地の減少	四五	2 使役牛の飼育	三九
二 主な農作物	四五	3 肉用牛が基幹作目に	三九
1 米・麦類	四五	4 乳用牛の飼育	三九
2 雜穀類	五六	5 そのほかの畜産	三九
3 芋類・そ菜類	五六	七 養蚕	三九
	五六	八 果樹	三九
	五六	九 りんご	三九
	五六	十 そのほかの果樹	三九

九 農業協同組合

四 造林と育林

1 分収制造林制度と私営造林

六八

1 壳木村農業協同組合の発足

三三

六八

2 茶臼高原農業協同組合

三五

五〇

3 農協合併について

三七

五二

第四節 林 業

三八

五三

一 山林の現況

三九

五三

1 森林率八八%

三九

五三

2 私有林率八三・三%

三九

五三

3 人工林率七一・五%

三九

五三

4 ヒノキ林五五・四%

三九

五三

5 齢級別山林面積

三九

五三

6 保安林

三九

五三

二 貸借山の運営と処分

三九

五三

1 分村後の貸付条例

三九

五三

2 旦開村民との調停

三九

五三

3 貸借山処分議案

三九

五三

4 測量は下伊那農業高校生

三九

五三

5 新戸への貸付

三九

五三

三 戰後の林業の歩み

三九

五三

1 林業の隆盛期

三九

五三

2 林業の停滞期

三九

五三

五 林業振興事業

五三

1 林業構造改善事業

五三

2 壳木村森林整備計画

五三

六 林道・作業道

五三

1 林道

五三

2 作業道

五三

七 林産物

五三

1 木材と薪炭林

五三

2 木炭と薪(束木)

五三

3 シイタケ

五三

八 猿友会と狩

五三

1 猿友会

五三

2 猿の方法

五三

九 森林組合

五三

1 壳木造林土工保護森林組合

五三

第五節 商工業・その他の産業	四五	六 いろいろな仕事にたずさわった人たち	四六
一 商 業	四五	七 商工業関係団体	四七
1 明治のころの商業	四五	1 売木村商工会	四八
2 流通機構の発展	四六	2 南信州広域公園 うるぎ星の森オートキャンプ場	四九
3 戦前の商圈	四七	3 温泉開発	四三
4 現代の商業	四七	4 ゴルフ場	四三
二 娯 楽（パチンコ）	四八	二 村の観光計画	四三
三 工業・製造業関係	四九	三 村の観光地・観光施設	四四
1 工業関係事業所数の推移	四九	四 村主催でおこなう観光イベント	四五
2 主な企業	四九	五 観光協会の設立	四六
3 製材業	四一	六 別荘の増加	四七
4 木工業	四三		
四 建設業	四四		
五 水産業	四五		
1 川魚の恵み	四五		
2 水産業について	四五		
3 養殖漁業について	四五		
4 漁業協同組合	四五		
第一節 道 路	四三		
1 売木に通じる国道の改修	四三		

二 一 主要地方道と県道.....	四〇	三 ラジオ・テレビ・新聞.....	四七
1 主要地方道阿南根羽線.....	四一	四 有線放送・有線電話.....	四八
2 県道大平山松葉線.....	四二	五 長野県防災行政無線.....	四九
三 一 主な村道.....	四三	六 売木村防災行政無線システム.....	五〇
1 一級村道.....	四四	七 売木村CATVシステム（ケーブルテレビ）.....	五一
2 二級村道.....	四五	八 売木郵便局.....	五二
第三節 通 信	四五		
一 売木の電話.....	五三		
二 発展する情報化社会.....	五四		
第四章 文化活動	五五		
第一節 公民館活動	五六		
一 公民館の発足.....	五六	一 公民館の発足.....	五六
2 信南バスの運行.....	五七	二 活動状況と経過.....	五七
3 ハイヤー.....	五八	三 成人式.....	五九
4 患者輸送車.....	五九		
5 福祉バス.....	六〇		
6 レンタカー.....	六一		
三 交通安全協会.....	六二		
四 交通事故ゼロの日.....	六三		
第三節 文化団体など	六四		
一 青年会	六五		
2 売木村青年会の歩み.....	六六		
3 現在の青年会.....	六七		
二 婦人会.....	六八		
3 老人クラブ.....	六九		
4 サークルわかば.....	七〇		
五 売木村体育協会.....	七一		

1 早起き野球………	四七	一 学生村………	四六
2 剣道クラブ………	四四	二 山村留学………	四九
3 売木スイミングクラブ………	四七	1 発足までの経過………	四九
4 ゲートボールクラブ………	四七	2 主旨………	四九
5 ナイターソフトボール………	四七	3 事業内容………	四九
6 そのほかの体育団体………	四七	4 長期留学児童生徒数の年度別推移………	四九
六 そのほかの主なグループ………	四七	5 山村留学センターの建設………	四九
第三節 学生村と山村留学………	四七	6 留学した子ども達の成果………	四九
第三節 学生村と山村留学………	四七	7 村にとっての利点と成果………	四九
第七編 教育			
第一章 学校制度以前の教育 ………	四五		
第一節 寺子屋教育………	四五		
一 庶民の教育機関………	四五		
二 売木の寺子屋………	四六		
1 宝藏寺と元長塾………	四七		
2 他村で活躍した売木の師匠………	四八		
第二章 学校制度以後の教育 ………	四六		
第一節 正勤学校（明治五年～明治十九年）………	四六		
1 学制布達と学校創立………	四六		
2 「学制」の布達………	四六		
3 学区の制定………	四六		
第二節 学校創立への動き ………	四八		
第一節 寺子屋教育………	四八		
一 庶民の教育機関………	四八		
二 売木の寺子屋………	四九		
1 宝藏寺と元長塾………	四九		
2 他村で活躍した売木の師匠………	四九		

3 学校世話役	一 壳木学校資金出金簿	四〇一
4 正勤学校の創立	2 共有林売却で学資金確保	四〇二
5 和合支所（盛昌学校）	1 学校運営費の実際	四〇三
二 小学課業と小学校則	2 教員の確保	四〇三
1 上等小学と下等小学	3 就学する子とできない子	四〇六
2 授業内容		四〇七
三 学校元資金と授業料		四〇八
1 元資金の増資		四〇九
2 授業料		四一〇
四 創立当初の学校概況		四一〇
1 正勤学校の児童数	1 「小学校令」期の時代背景	四一九
2 修業年限と進級	2 小学校令による学校の改変	四二〇
3 級別生徒数	3 簡易科設置	四二〇
4 試験と報償制度	二 連合村時代の壳木の学校	四二一
第二節 壳木学校（明治九年～明治十九年）	1 旦開尋常小学校の支校	四二一
一 校名改称と校舍新築	2 連合村の教育予算	四二一
1 壳木学校に改称	3 連合村時代の授業料	四二二
2 蔽地に学校新築		四二二
二 制度の変遷		四二二
1 「学制」から「教育令」へ	1 「新小学校令」	四二三
三 学資金確保と共有林売却	2 教育勅語	四二三
	3 「改正小学校令」	四五三
	4 ある生徒の学校歴	四五四
四 豊村時代の壳木学区		四五五

五 就学率の向上と義務教育六年制.....	五五
1 豊村の就学率の低迷.....	五五
2 就学奨励と女子の就学率.....	五六
3 学務委員の仕事.....	五六
4 義務教育六年制に延長.....	五八
六 国定教科書に至るまで.....	五九
七 校舎改築.....	五九
1 舞台校舎.....	五九
2 木造新校舎建築.....	五九
八 学校生活の二面.....	五九
1 祝祭日と休業日.....	五九
2 身なり・持ち物.....	五九
3 旅行・遠足・運動会.....	五九
4 同窓会.....	五九
5 子守り登校と手伝い.....	五九
6 芝居と子ども.....	五九
7 藤井先生の殉職.....	五九
8 学校林.....	五九
9 ラジオが入る.....	五九
第四節 売木尋常高等小学校（昭和五年～昭和十六年）.....	一四
一 高等科の設置.....	一四

一四

第五節 売木国民学校（昭和十六年～二十一年）.....	一四
一 皇国民練成の教育.....	一四
1 国民学校令の公布.....	一四
2 皇国民の練成.....	一四
二 決戦下の教育.....	一四
1 戰意高揚と戰勝祈願.....	一四
2 体力・精神力の練成.....	一四
3 勤労奉仕と増産動員.....	一四
4 木炭と苧麻とアカソと桑の皮.....	一四
5 ほしがりません勝つまでは.....	一四
三 終 戰.....	一四
第六節 青少年教育.....	一四
一 补習科から農工補修学校へ.....	一四

一四

一四

2

壳木農工補修学校

五三

第三章 壳木小中学校

二 壳木実業補修学校と壳木青年訓練所

五三

1 壳木実業補修学校

卷七

2 壳木青年訓練所

卷七

三 壳木青年学校

卷七

第三章 戰後の民主主義教育

卷一〇

第一節 占領下の教育

卷一〇

一 授業再開と戦時教育の払拭

卷一〇

1 戰時教育の払拭

卷一〇

2 授業再開

卷一〇

3 民主主義教育への道すじ

卷一二

五 小中併設校舎新築

卷一二

第二節 新学制（六・三・三・四制）の発足

卷三

一 教育基本法・学校教育法の施行

卷三

1 教育基本法

卷三

2 学校教育法

卷三

二 新学制下の教育

卷三

1 学習指導要領

卷三

卷七

卷七

卷七

卷七

卷七

卷七

二 壳木小中学校の発足

卷七

二 中学校校舎建築

卷七

三 教育施設・設備の充実

卷九

1 学校用水の確保

卷九

2 体育館の建設

卷九

3 特別教室等の設置

卷九

4 プール

卷九

5 半鐘からベルタイマーへ

卷九

6 教職員住宅の整備

卷九

7 教具・施設の寄附

卷九

四 教育予算

卷九

五 小中併設校舎新築

卷九

1 改築に至る経過

卷九

2 鉄筋新校舎

卷九

六 学校給食

卷九

七 児童・生徒の推移

卷九

1 児童数の減少

卷九

2 中学校統合問題

卷九

八 校章と校歌制定

卷九

2 校 歌

九 P T A の発足 壱〇

2 任命制の教育委員会

3 売木村教育委員会の機構

五三

第四節 教育委員会 壱一

一 教育委員会の発足 壱二

1 公選の教育委員会 壱三

第五節 学校の沿革 壱四

第八編 民 俗

第一章 社会生活 壱一

第一節 村の仕組み 壱一

一 江戸時代の集落 壱一

二 集落の寄り合い 壱二

第一節 家「イエ」 壱一

一 姓氏による家の増加 壱一

二 家紋とその特色 壱二

第二章 家のきまり 壱六

第一節 家「イエ」 壱一

一 姓氏による家の増加 壱一

二 家紋とその特色 壱二

第二節 家族関係 壱一

一 相 続 壱一

二 隠 居 壱二

三 本 家 壱三

四 分 家 壱四

一 「ユイ」 壱三

二 組の共同作業 壱三

三 講 壱四

1 講の種類 壱四

2 無尽（頼母子講） 壱四

第三章 衣食住

九 食制と用具

1 食事の取り方

2 什器

第一節 着る物

六〇一

農作業の衣服

六〇二

- 1 男の作業着 六〇三
2 女の作業着 六〇三

- 二 子どもの服装 六〇四
三 ゾウリ作り 六〇五

- 四 晴れ着 六〇六
五 自家用の布の制作 六〇七

第二節 食べ物

六〇八

一 主食

六〇九

二 補助食

六一〇

三 副食

六一一

四 晴れの日のご馳走

六一二

五 保存食

六一三

六 味噌汁

六一四

七 山の幸

六一五

八 病気見舞のうどん

六一六

第三節 住まい

六一七

一家の向き

六一八

明治時代の中流以上の家屋

六一九

明治・大正の一般小住宅

六二〇

大正・昭和初期の養蚕農家

六二一

古い家の事例

1 伊東要(長島)宅

六二二

2 坂巻重昌(古屋敷)宅

六二三

3 伊東亀人(半田)宅

六二四

六 家のつくり

1 名前を持つ柱

六二五

2 座敷

六二六

3 居間

六二七

4 ヘヤとナカノマ

六二八

5 ニワ(土間)

六二九

6 クド(かまど)

六三〇

7 馬屋

六三一

七 附属家屋など

六三二

1 クラ（藏・土蔵）	六三	二四月
2 便 所	六三	三五月
3 水車小屋とトンキラ・カラウス	六三	六月
八 家の新築		
1 木取り	六三	七月から八月
2 木挽き	六七	六九月
3 桧の神祭り	六七	七月
4 木取りの見積もり	六六	八月
5 地鎮祭		
6 地づき	六六	九月
7 タテメエ（建て前）	六〇	十月
8 普請見舞い	六三	十一月
9 泊まり初めと家移り	六四	十二月
九 ヤネゲエー（屋根の葺き替え）		
一〇 雪廻い	六五	正月
一一 灯り	六五	二月
第四章 生産・生業		
第一節 稲作を中心とする農事暦	六三	
一 雪の多い期間（一月～三月）	六三	
四 屋根板	六三	
3 カイシキの始まり	六三	
2 皆敷生産	六三	
3 皆敷の動力の変化	六三	
第三節 山の仕事		
一 山とのかかわり	六三	
二 桶 側	六三	
三 皆敷（カイシキ）	六三	
一 カイシキの始まり	六三	
2 皆敷生産	六三	
3 皆敷の動力の変化	六三	

五 炭焼き

一
六

1 製炭業の発達

2 炭焼き窯の作り方

3 炭焼き作業

4 立て替え

5 搬出

6 検査と振興

7 炭焼きの衰退

二 馬産と馬市
三 馬と信仰
四 馬の病気と死

五 馬から牛へ

六 馬との生活

七 奈良市

八 大和郡

九 大和郡

十 大和郡

十一 大和郡

十二 大和郡

十三 大和郡

十四 大和郡

十五 大和郡

十六 大和郡

十七 大和郡

十八 大和郡

十九 大和郡

二十 大和郡

二十一 大和郡

二十二 大和郡

二十三 大和郡

二十四 大和郡

二十五 大和郡

二十六 大和郡

二十七 大和郡

二十八 大和郡

二十九 大和郡

三十 大和郡

第四節 馬の生産

一 馬の生産

二 十一

第五章 交通・交易

第一節 往還

一 峠と古い道

1 新野峠

2 壱木（峠）辻から金谷峠までの古道

3 壱木峠

4 金谷道

5 平谷道

6 根羽道

7 日吉道

8 川宇連道

9 郵便道

10 バスと飯田線の利用

目次

一 馬の生産

二 十一

第二節 交 易……

2 帯祝い（帯もらい）……

3 ヤコメ（焼米）作り……

六七

一 「馬追い」あれこれ……

六三

1 馬の沓……

六三

2 愛嬌者の馬追い……

六三

3 ちょぱいち（賭博）……

六三

4 馬追いの服装……

六三

三 行商に来た人……

六三

1 吳服売り……

六三

2 干物売り……

六四

3 肥料売り……

六四

4 富山の薬売り……

六五

5 その他の行商……

六五

第二節 結 婚……

一 結婚の成立……

六一

1 見合い・橋かけ……

充

2 決めの酒（酒入れ）……

充

3 結 納……

充

4 荷受け……

充

第一節 出産と育児……

六七

一 生まれる……

六七

1 妊 娠……

六七

2 嫁入り……

充

3 結婚式と披露宴……

充

第六章 人の一生……

六七

五 巡回購買車「ひまわり号」……

六六

四 商圏の変化……

六六

二 結婚式・披露宴……

充

1 見合い・橋かけ……

充

2 決めの酒（酒入れ）……

充

3 結 納……

充

4 荷受け……

充

二 出産から誕生祝いまで……

充

1 出 産……

充

2 産後の食事……

充

3 お七夜まで……

充

4 ウブヤンナイ（お産見舞い）……

充

5 お宮参り……

充

6 お誕生祝い……

充

7 お節句……

充

8 そ の 他……

充

4	名のり	5	辻ムシロ
5	シンノウ	6	北掛け
三	嫁の里帰り	六	墓穴掘り
四	祝儀・贈り物など	1	墓穴の選定
		2	墓穴掘り
		3	アナホリサの接待
第三節	厄 年	六五	六五
第四節	葬 儀	六六	六六
一	願掛け	六七	六七
二	死の予兆	六八	六八
三	人の死	六九	六九
1	飛脚を立てる	六九	六九
2	枕がえしとお通夜	六九	六九
四	葬式の準備	六九	六九
1	葬式の準備	六九	六九
2	装具の準備	六九	六九
3	料理の準備	六九	六九
五	湯 灌	六九	六九
1	湯灌に呼ぶ人	七〇	七〇
2	湯灌を行う人の服装	七〇	七〇
3	湯 灌	七〇	七〇
4	死者の装束	七〇	七〇
九	葬儀費用	七〇	七〇
1	お片付け	八	八
2	精進落とし	八	八
3	墓直し	一	一
4	お 扉	二	二
5	辻ムシロ	六	六
6	北掛け	七	七
7	墓穴掘り	七	七
8	墓穴の選定	七	七
9	アナホリサの接待	七	七
10	厄年	七	七
11	願掛け	七	七
12	死の予兆	七	七
13	人の死	七	七
14	飛脚を立てる	七	七
15	枕がえしとお通夜	七	七
16	葬式の準備	七	七
17	装具の準備	七	七
18	料理の準備	七	七
19	湯灌	七	七
20	湯灌に呼ぶ人	七	七
21	湯灌を行う人の服装	七	七
22	死者の装束	七	七
23	お片付け	七	七
24	精進落とし	七	七
25	墓直し	七	七
26	お 扉	七	七

一〇 回忌	七〇	四 花祭り	七〇
一一 墓制	七〇	第三節 夏の行事	七二
		一 端午の節句（菖蒲の節句）	七二
		1 男子の節句	七二
		2 菖蒲湯	七三
		二 七夕祭り	七三
		三 お盆	七三
		1 お盆の行事	七三
		2 盆道作りとお墓の掃除	七三
		3 お盆の支度	七三
		4 盆の行事	七三
		5 新盆	七三
		6 盆踊り	七五
		第四節 秋の行事	七六
第二節 春の行事	七六		
一 節 分	七六		
二 鈎供養	七九	一 オクンチ	七六
三 雛祭り（桃の節句）	七九	二 お月見	七七
1 雛祭り	七九	三 お彼岸	七七
2 サンガツバ（三月場）	七九	1 仏壇掃除	七七
3 お寺参り	七九	2 墓参り	七七

四 山の講

七七

2 道仙沢の馬頭観音群

七四

1 ヨイヤマ(宵山).....

3 長島峠の馬頭観音群

2 山の講.....

4 下り沢の馬頭観音群

五 恵比寿講

5 高森山の馬頭観音

七五

第八章 民間信仰

七九

第一節 売木の石仏

七九

一 概 観

一 御嶽講碑

七九

二 御詠歌と売木の靈所

二 三十三觀音

七九

第二節 道祖神

三 三界万靈塔

七九

一 道祖神とは

四 行者様

七九

二 売木の道祖神

五 不動明王

七九

1 江戸時代の道祖神

六 地藏天狗

七九

2 明治時代の道祖神

七 啞の墓

七九

第三節 馬頭観音

八 人馬亡靈等

七九

一 馬頭観音とは

九 三太夫の墓

七九

二 主な馬頭観音

一〇 湯場のお薬師様

七九

1 大平山の馬頭観音群

一 売木の開墾記念碑

七九

第六節 開墾記念碑

七九

第九章 民俗芸能	一 岩倉の開墾記念碑	二 地芝居の規制
	2 軒山の開墾記念碑	1 笛踊り願書
	3 大平の奉読誦観音経千部塔	2 明治の芝居規制
第一節 盆踊り		3 春・秋の芝居興行
	一 壳木の盆踊りの特色	一 地芝居のにぎわい
	二 唄と踊り	2 地芝居の復活
第二節 お練り祭り		3 出演者と練習
	一 お練り舞いの種類	4 地芝居のにぎわい
	1 真金小粒	5 壳木歌舞伎の終焉
第三節 地芝居	2 岡崎女郎衆	年 表
	3 祇園囃子	壳木村村誌刊行委員会委員名簿
	二 小太鼓の打ち方	壳木村誌編纂委員会委員
	三 笛の吹き方	編集後記
第一節 壳木地芝居の発祥	あとがき	
1 白鳥社の舞台		